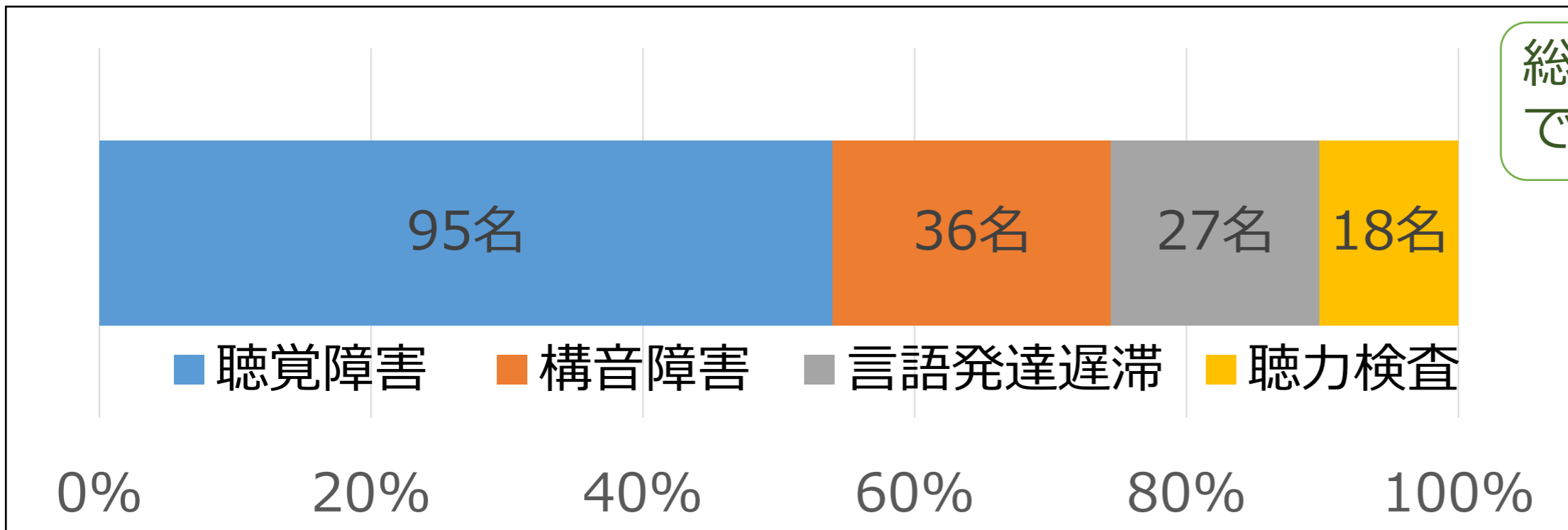


おぎはら耳鼻咽喉科は金曜日の午前中が休診です。その時間、スタッフは事務作業や勉強会をしています。1月は医師、看護師、事務、そして私たち言語聴覚士(ST)が2022年を振り返り、報告会を行いました。2月のカスタネット通信では、報告会の内容や言語聴覚士の2022年を振り返ります。

年頭報告会



総数は176名でした！

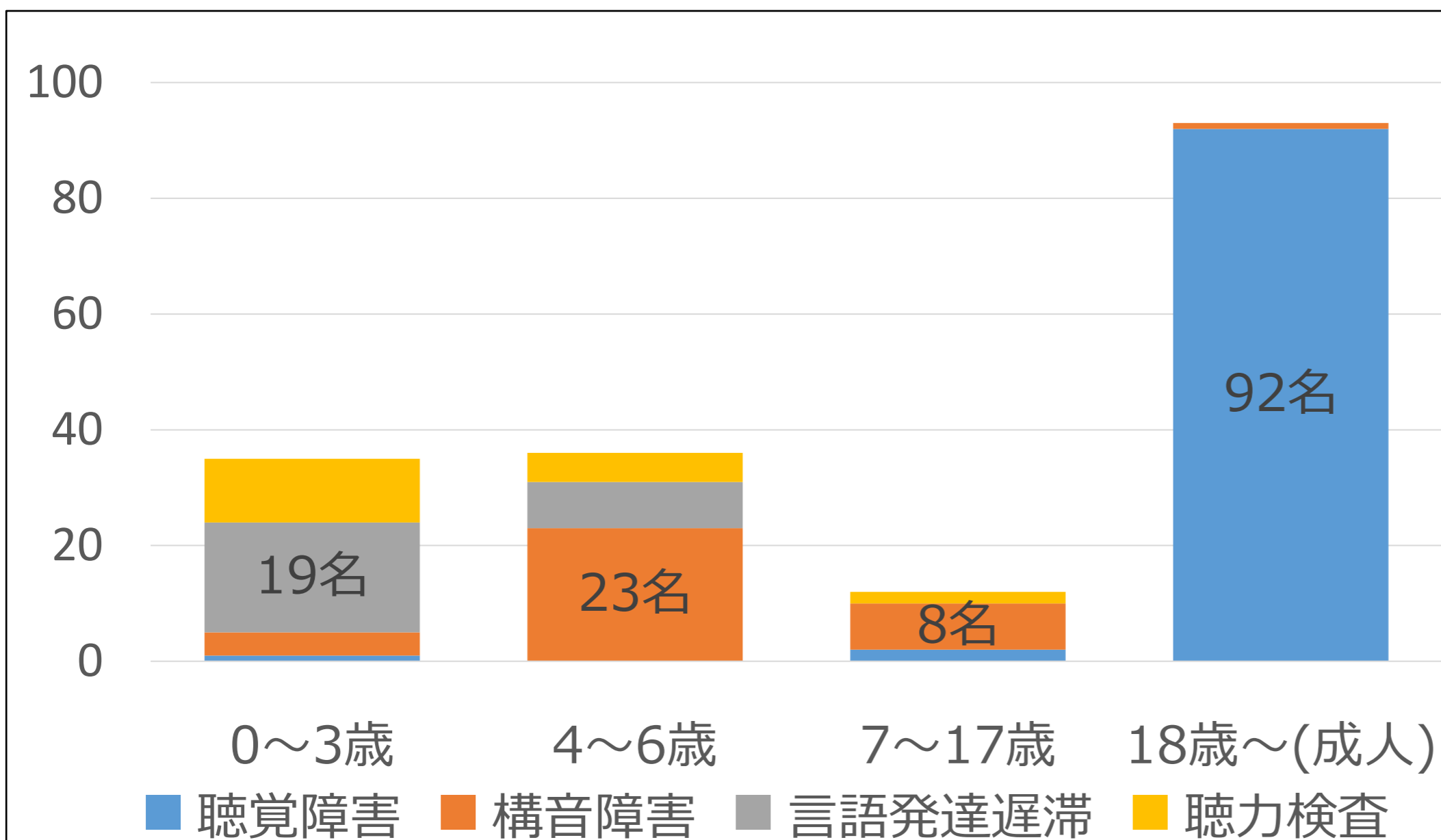


図1. 2022年初診人数

2022年2月号のカスタネット通信でも同様の図を用い、2021年の初診人数をご紹介しました。

2021年の初診人数は227名だったので数は減っていますが、「聴覚障害」が約半数であるといった主訴の内訳の傾向は同様でした。

まずは図1をご覧ください。2022年の1年間にSTがお会いした初診の方の人数とその主訴の内訳です。統計をとる関係で、「聴覚障害」「構音障害」「言語発達遅滞」「聴力検査」の4つに大別しています。



2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられましたね。



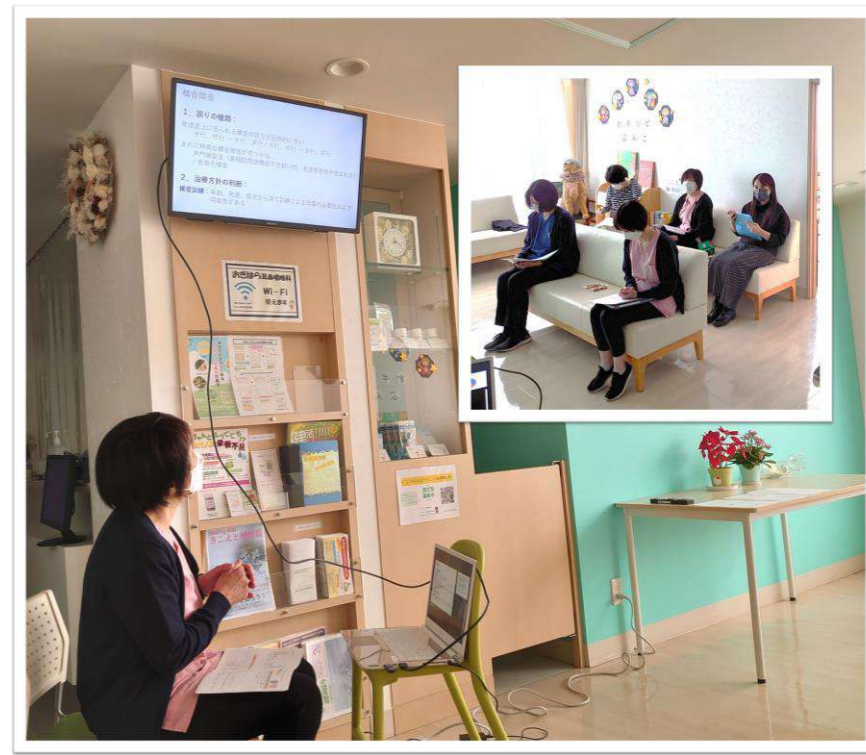
図2は年齢別に主訴をまとめました。それぞれ人数が最多のところに数字を入れました。

図2. 年齢別主訴

昨年同様、3歳以下では「言語発達遅滞」が主訴のお子さん多く受診されました。4～6歳、7～17歳のお子さんの多くは「構音障害」を主訴に受診されました。成人では1名以外「聴覚障害」が主訴でした。

2022年のカスタネット通信4、5、8、9、10月号では聴覚障害、6月号では言語発達遅滞を主訴にいらした方に対し言語聴覚士が何をするかについて、ご説明しました。今年は構音障害、聴力検査についてご紹介したいと考えています。

また、今年は日常生活で補聴器を上手に活用していくための聴覚リハビリテーションを積極的に取り入れていきたいと思っています。



2022年振り返りと2023年抱負 🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼🐼

2022年は学会発表や介護予防教室など、クリニック外での活動も多くありました。STが担当した院内勉強会、院内装飾なども含め、1年間の写真を写真で振り返ってみたいと思います。学会の写真はこれまでのカスタネット通信でご紹介したので、今回は新潟&山形の名産品です。



今年の日本言語聴覚学会は『改めて考える「つながり」の重要性』をテーマに愛媛で、日本聴覚医学会は『難聴とフレイル、認知症』をテーマに千葉で開催されます。どちらも私たちの日常臨床に深く関わるテーマです。しっかり勉強してきたいと思っています。

昨年の院内勉強会では「STに関連する診療報酬」「公的助成制度」「補聴外来」を取り上げました。今年は“アサーショントレーニング”について勉強をする予定です。アサーショントレーニングとは、はっきりと積極的に自分の考えを表現するスキルを身に着けるためのトレーニングです。カスタネット通信でも紹介をしたいと思います。聴覚リハビリテーションにも導入できるのではないかと考えます。

院内装飾は現在、夜空を彩る星座です。皆様、ご自身の星座は見つかりましたか？次にSTが担当するのは夏です。テーマは『夏休みの思い出(予定)』です。2023年も院内・院外で積極的に活動したいと思っています。

